

ネットいじめの加害経験者におけるネット利用の影響(5)

ネットいじめの加害行動経験がある高校生及び一般高校生の ICT スキル及び情報モラルの実態

○熊崎あゆち¹・鈴木佳苗²・樫淵めぐみ²・堀内由樹子¹・桂瑠以¹・坂元章¹

(¹お茶の水女子大学・²筑波大学)

キーワード：ネットいじめの加害行動経験, ICT スキル, 情報モラル

The effects of Internet use among high school students with cyberbullying experiences (3):Substantial investigation of ICT skills and netiquette

Ayuchi KUMAZAKI¹, Kanae SUZUKI², Megumi KASHIBUCHI², Yukiko HORIUCHI¹ Rui KATSURA¹ and Akira SAKAMOTO¹

(¹Ochanomizu University, ²University of Tsukuba)

Key Words: cyber-bullying experiences, ICT skills, netiquette

目的

熊崎ら(2010)では、一般サンプルを対象に、情報や通信処理技術を使いこなす技能である ICT(Information and Communication Technology)スキルが中学生のネットいじめ加害行動を増加させるという結果が得られた。また、同サンプルにおいて、ネットいじめ加害行動を抑制しうる要因として、ネットにおける対人行動マナーである情報モラルを持っていることが、ICTスキルの増加に伴うネットいじめ加害行動の増加を抑制するという調整効果を持った(Kumazaki et al., 2011)。先行研究でこのような結果が示されているが、一連発表の(3)と同様に、一般サンプルを対象とした調査では、ICTスキルや情報モラルがネットいじめの加害行動経験に及ぼす影響関係を検出しにくい。そこで、ネットいじめの加害行動経験者を対象として、ネットスキルがネットいじめの加害行動経験を促進し、情報モラルがネットいじめの加害行動経験を抑制するかを検討する。一連発表の(5)では、加害行動経験者及び一般サンプルにおける ICT スキルと情報モラルの実態について検討する。

方法

調査時期・調査対象者 加害行動経験者の調査時期・調査対象者は一連発表の(3)と同様である。比較に用いた一般サンプルは、熊崎ら(2010)及び Kumazaki et al.(2011)のうち、1 時点目に回答した高校生の対象者 1020 名(男子 574 名, 女子 429 名, 不明 17 名)である。

質問項目 ICT スキル ネットいじめ加害行動を実行するために必要となるメール送信、ウェブページへの閲覧や書き込みなどについて 10 項目を作成し「まったくできない」から「とてもよくできる」の 4 件法で尋ねた。合計得点を ICT スキル得点とした。**情報モラル** インターネット協会(2005)などを参考に、ネット上における具体的な対人行動を(「A さんは、いたずらで、B さんの名前前で C さんにメールを出した」など) 8 項目作成し、A さんの行動について「A さんはまったく悪くない」から「A さんはとても悪い」の 4 件法で善悪判断を求めた。合計得点を情報モラル得点とした。**デモグラフィック変数** 学年、性別などについて回答を求めた。

手続き 一連研究の(3)と同様である。

結果

ICT スキル・情報モラルの実態 加害行動経験者の ICT スキル・情報モラルの平均値及び標準偏差を算出し(表 1)、性別による *t* 検定を実施した。ICT スキルについて性差が見られ、2 時点とも女子の方が男子より有意に高かった($t(519)=6.66, p<.001; t(605)=6.18, p<.001$)。情報モラルも、性差が見られ 2 時点とも女子の方が男子より有意に高かった($t(605)=4.36, p<.001; t(605)=3.91, p<.001$)。一般サンプルの平均値及び標準偏差は、熊崎ら(2010)に示した。一般サンプルでも性差が見られ、ICT スキル及び情報モラルのいずれも、女子の方が男子より有意に高かった($t(945)=5.89, p<.001; t(983)=6.05,$

$p<.001$)。

加害行動経験者と一般サンプルの比較 ICT スキルと情報モラルについて、性別とサンプル(加害行動経験者・一般サンプル)の 2 要因分散分析を実施した。ICT スキルについて性別とサンプルの主効果が見られ、女子の方が男子より高く($F(1,1550)=80.90, p<.001$)、加害行動経験者の方が一般サンプルより高かった($F(2,1550)=4.60, p<.05$)。有意な交互作用は見られなかった($F(1,1550)=3.07, n.s.$)。情報モラルについても、性別とサンプルの主効果が見られ、女子の方が男子より高く($F(1,1587)=53.02, p<.001$)、一般サンプルの方が加害行動経験者より高かった($F(2,1587)=5.45, p<.01$)。有意な交互作用は見られなかった($F(1,1587)=.58, n.s.$)。

考察

本研究の結果、一般サンプル及び加害行動経験者において ICT スキル、情報モラルともに女子の方が男子よりも高いという性差が一貫して示された。そして、全体として加害行動経験者は一般サンプルに比べ、ICT スキルが高く、情報モラルが低い傾向が示された。これは、ICT スキルはネットいじめ加害行動を可能にし(熊崎ら, 2010)、情報モラルがネットいじめ加害行動を抑制する(Kumazaki et al., 2011)という結果と矛盾しない結果であった。

表1 2時点における ICT スキル、情報モラルの平均値(SD)

	全体		男子		女子	
	T1	T2	T1	T2	T1	T2
ICT スキル	20.76 (5.59)	21.14 (5.75)	23.84 (7.95)	24.62 (8.58)	28.01 (7.15)	28.55 (7.06)
情報モラル	26.24 (7.78)	26.88 (7.97)	19.64 (5.98)	20.09 (6.44)	21.60 (5.13)	21.91 (5.05)

引用文献

インターネット協会(2005). インターネットにおけるルールとマナーこどもばん公式テキストインターネット協会
熊崎あゆち・鈴木佳苗・桂瑠以・坂元章・樫淵めぐみ(2010). 子どものインターネット利用といじめ(4)-ICT スキルと情報モラルがネット及び学校でのいじめの加害経験に与える影響-, 日本心理学会第 75 回大会発表論文集, 1121.
Kumazaki, A., Suzuki, K., Katsura, R., Kashibuchi, M. & Sakamoto, A. (2011). The Effects of Netiquette and ICT Skills on School-bullying and Cyber-bullying: The Two-wave Panel Study of Japanese Elementary, Secondary, and High School Students. Oral session presented at the International Conference on Education and Educational Psychology, Istanbul, Turkey.
註)本研究は、三菱総合研究所、安心ネットづくり促進協議会と連携して行われた。また、本研究は最先端・次世代研究開発支援プログラム「ネットいじめ研究の新展開ー「行動する傍観者」を生み出すプログラムー」(代表：鈴木佳苗)の助成を受けている。